

中学歴史プリント (過去問類似)

幕末・開国

名前

得点

/8

問1 1858年に日米修好通商条約が結ばれた後、日本は欧米諸国との貿易を開始しました。この貿易の開始が国内の経済に与えた影響と、物価の変動について説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2025年 神奈川県公立入試 類似)

1. 生糸や茶などの品物が大量に輸出されたことで国内で品不足となり、物価が急激に上昇した
2. 海外から安価な綿織物が大量に流入したことで、国内の産業が活性化し物価が安定した
3. 政府が地租改正を実施して税制を安定させたことで、輸出入のバランスが保たれた
4. 労働環境の改善を求める全国水平社の運動により、物価上昇を抑えるための賃金改定が行われた

問2 幕末の開国にともなう貿易の拡大は、国内の経済状況に大きな変化をもたらしました。当時の社会状況を記した資料などから読み取れる、物価上昇や生活苦に関連する出来事として正しいものはどれか。 (2026年 青森公立入試 類似)

1. 商人による商品の買い占めが行われて物価高が加速し、各地で打ちこわしや世直し一揆が発生した
2. 急激なデフレーションが発生したことで農作物の価格が下落し、農村から都市への人口流出が止まった
3. 幕府が関税自主権を行使して輸入品に高い税を課したため、国内の工業製品の価格が大幅に下がった
4. 政府が生活必需品の価格を統制したことにより、都市部の民衆の生活は以前よりも安定した

問3 19世紀半ばの開国に関する出来事について、日米和親条約の内容として正しい説明を選択してください。なお、開港された場所は、現在の静岡県伊豆半島の先端部分と、北海道の南端部分に位置しています。 (2019年 三重公立入試 類似)

1. 燃料や食料を補給するため、下田と箱館の2港が開港された。
2. 本格的な貿易を開始するため、下田に代わって横浜と長崎が開港された。
3. 開国後も外国人の行動を制限するため、出島のある長崎のみが維持された。
4. 外国の軍艦を警戒するため、江戸に近い浦賀と館山の2港が開港された。

問4 1858年に、大老の井伊直弼が天皇の許可を得ないままアメリカと調印した、貿易の開始を目的とした条約は何ですか。 (2020年 香川公立入試 類似)

1. 日米修好通商条約
2. 日米和親条約
3. 日朝修好条規
4. 日米安全保障条約

問5 幕末の開港後、貿易が盛んになったことで日本の国内経済や社会に生じた影響について、当時の状況を説明した文章として最も適切なものはどれですか。 (2026年 山形公立入試 類似)

1. 生糸が大量に輸出されたことで国内向けの在庫が不足し、物価の上昇を招いて人々の生活を圧迫した。
2. 欧米から輸入された安価な綿織物に対抗するため、幕府は即座に全国の農村へ最新の機械を導入した。
3. 輸入品の流入によって国内産業が活性化したため、武士や農民の不満は解消され、社会は安定に向かった。
4. 輸出額の急増により国内の貨幣価値が上昇したため、それまで続いていた物価高騰が完全に収まった。

問6 開港から江戸幕府の終焉に至るまでの歴史的な推移について、出来事の順序が正しい説明はどれですか。 (2018年 和歌山公立入試 類似)

1. 日米修好通商条約の調印後に桜田門外の変が起こり、その後に結ばれた薩長同盟の圧力を背景に大政奉還が行われた。
2. 大政奉還が行われて政権が天皇に返された後に、幕府を支持する勢力が薩長同盟を結成して抵抗した。
3. 薩長同盟が結ばれた後に開港が行われ、その混乱の中で井伊直弼が暗殺される桜田門外の変が起きた。
4. 桜田門外の変によって幕府の体制が整った結果、大政奉還によって徳川家の支配がより強まった。

問7 幕末から明治時代にかけて日本に駐在したイギリスの外交官で、卓越した日本語能力を活かして第15代将軍である徳川慶喜の通訳を務めたほか、日光の魅力を紹介するガイドブックを刊行するなど、日本の文化を海外に伝えた人物は誰ですか。 (2024年 栃木公立入試 類似)

1. アーネスト・サトウ
2. ハリー・パークス
3. フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト
4. タウンゼント・ハリス

問8 1854年、アメリカのペリーが再度来航した際、日本が長年の鎖国政策を改めて開国することを認め、下田と函館の2港を開くことなどを約束した条約の名称として適切なものはどれですか。 (2021年 岡山公立入試 類似)

1. 日米和親条約
2. 日米修好通商条約
3. 日露和親条約
4. 日英通商航海条約

答え合わせ・解説

問1	答え 1 生糸や茶などの品物が大量に輸出されたことで国内で品不足となり、物価が急激に上昇した	幕末の開港後、主要な輸出品であった生糸や茶が海外へ大量に流出したため、国内市場ではこれらの品物が不足しました。さらに、日本と外国との金銀の交換比率の違いから、日本から大量の金が流出したことを防ぐために幕府が質の悪い貨幣を大量に発行したことも重なり、急激なインフレーション（物価の上昇）を招きました。選択肢にある地租改正や全国水平社は、明治時代以降の出来事であり、幕末の経済混乱とは直接の関係はありません。
問2	答え 1 商人による商品の買い占めが行われて物価高が加速し、各地で打ちこわしや世直し一揆が発生した	貿易の開始により輸出品が不足したことで、商人たちはさらなる値上りを期待して商品の売り惜しみや「買い占め」を行いました。これにより民衆の生活は著しく困窮し、その不満は幕府や富商へと向けられ、各地で激しい「打ちこわし」や社会の変革を求める「世直し一揆」が頻発する原因となりました。なお、米騒動は1918年の出来事であり、幕末の状況とは異なります。
問3	答え 1 燃料や食料を補給するため、下田と箱館の2港が開港された。	日米和親条約は、日本の鎖国体制を終わらせた最初の条約です。このとき、アメリカ側が求めたのは貿易の拠点ではなく、捕鯨船などが寄港できる補給基地の確保でした。そのため、江戸から一定の距離があり、管理がしやすい伊豆半島の下田と、北の拠点である箱館が選ばれました。自由な貿易が始まるのは、1858年の日米修好通商条約以降のことです。
問4	答え 1 日米修好通商条約	1854年に結ばれた日米和親条約は開国と燃料・食料の補給を主眼としていましたが、1858年のこの条約はアメリカ側の強い要求により、本格的な貿易（通商）を開始するために締結されました。勅許を得ない「無勅許調印」が行われたことも大きな特徴です。
問5	答え 1 生糸が大量に輸出されたことで国内向けの在庫が不足し、物価の上昇を招いて人々の生活を圧迫した。	生糸が主要な輸出品として大量に海外へ送られた結果、日本国内で使用される生糸が不足し、関連する製品の価格が急騰しました。また、貿易の開始によって経済が混乱し、さらに幕府が質の低い貨幣を大量に発行したことも重なって激しいインフレーション（物価高）が起こり、庶民の生活は非常に苦しくなりました。
問6	答え 1 日米修好通商条約の調印後に桜田門外の変が起こり、その後に結ばれた薩長同盟の圧力を背景に大政奉還が行われた。	まず1858年の条約調印と開港があり、その強引な政治手法への反発から1860年に桜田門外の変が起きました。その後、1866年に倒幕派の薩長同盟が成立し、武力による倒幕を避けようとした徳川慶喜が1867年に大政奉還を行いました。大政奉還よりも前に薩長同盟が成立している点が重要な歴史の流れです。
問7	答え 1 アーネスト・サトウ	アーネスト・サトウは、幕末の動乱期にイギリス公使館の通訳官として来日しました。彼は単なる通訳の枠を超え、徳川慶喜をはじめとする幕府の要人や、薩摩・長州といった有力諸藩の武士たちとも接触し、現地の情勢を本国に詳しく報告する重要な役割を担いました。また、日本文化への造詣も深く、日光の観光ガイドブックを執筆するなど、黎明期の日本観光や文化交流にも寄与しました。
問8	答え 1 日米和親条約	1853年のペリー来航を受け、翌年の1854年に江戸幕府がアメリカと結んだ条約です。この条約により、日本は下田（静岡県）と函館（北海道）の2港を開港し、アメリカ船への薪水や食料の供給を認めることとなりました。これにより、江戸幕府が長年続けてきた鎖国体制は事実上終わりを迎え、開国へと踏み出すことになりました。